

初代細胞スターティング培地 MF-start™



■期間：2008年5月7日～2008年8月1日（ご注文分）

生体組織からの初代細胞の分離培養効率が向上します。

本培地は、生体組織からの、線維芽細胞、脂肪細胞、軟骨細胞、及び間葉系幹細胞などの分離培養効率を向上させます（血球系、上皮系細胞には適しません）。マウスiPS細胞樹立に用いられた報告がございます*。

*K. Takahashi and S. Yamanaka, *Cell*, **126**: 663-676 (2006)



特長1 高効率

- ・分離培養直後のアウトグロス効率、及びコロニー形成効率が向上します。

特長3 簡便

- ・基礎培地にStart Supplementを加えるだけで培地調製ができます。

特長2 MF-medium®との相乗効果

- ・MF-medium®（本誌p.5）との組み合わせでより効果的な培養が可能です。

使用方法

1. 細切方法、酵素処理方法などにより組織から目的とする細胞を調製します。
2. 分離した細胞、もしくは処理した組織をMF-start™で培養します。
3. 4～10日間培地交換せず、本培地で培養します。
4. 細胞がコロニー様に増殖しはじめたら、所定の増殖培地に培地交換を行います。
5. 常法に従い細胞培養を行います。
※増殖培地としては弊社MF-medium®のご使用をお薦めいたします。

実施例 従来培地との比較

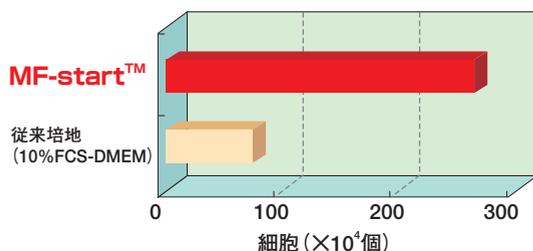


図1. ラット胎児組織からの分離増殖細胞数

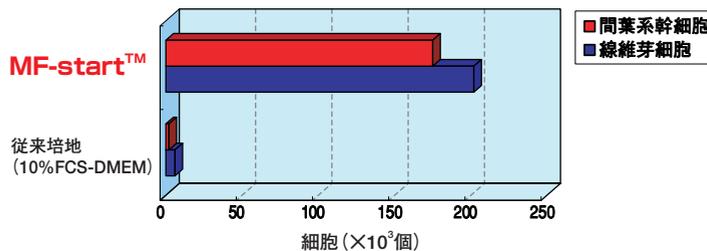


図2. マウス組織からの分離増殖細胞数

ラット胎児から調製した組織を10% FCS-DMEMとMF-start™で5日間培養後の細胞数を比較しました。MF-start™では約4倍の細胞を回収できました（図1）。

同様にマウスから線維芽細胞、骨髄由来間葉系幹細胞を調製し各培地で培養しました。10% FCS-DMEMではほとんど細胞が増えてきませんがMF-start™ではいずれも十分な細胞数を得ることができました（図2）。

また、（図3）は細切りしたヒト関節軟骨からMF-start™を用いて初代細胞を行ったものを示しています（培養1週間目）。多数の軟骨細胞のアウトグロスが確認できました。

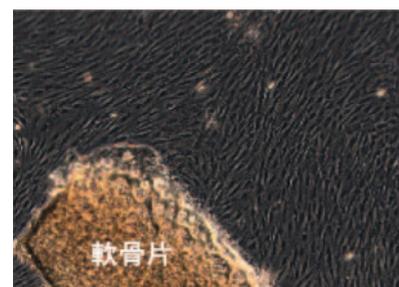


図3. ヒト関節軟骨から細胞樹立

品名	包装	保存温度	Code No.	通常価格	キャンペーン価格
MF-start™					
・MF-start™ (基礎培地)	225ml	4℃	TMMFS-001	¥28,000	¥19,600
・Start Supplement	25ml	-20℃			